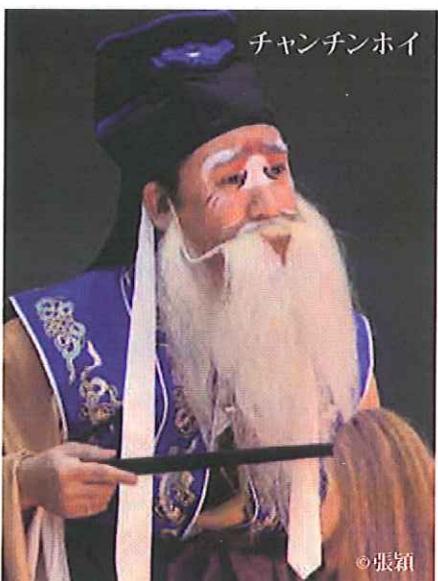


京劇・日舞のコラボレーション

西遊記 三藏絶体絶命！(京劇・日舞)

三番叟・藤娘 (日本舞踊)



2010年3月1日(月) 18時開演

横浜市 慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館

入場無料

藤原洋記念ホール (東急東横線日吉駅下車すぐ)

協賛:慶應義塾田語力充実資金

エイベックス・エンタテインメント株式会社

プラチナ万年筆株式会社

助成:国際交流基金
北京日本文化センター

後援:日本国駐中華人民共和国大使館

中国公演:中国北京市第四中学 大礼堂

2010年3月10日(水)16時30分開演

2010年3月13日(土)14時開演

主催:慶應義塾高等学校 北京第四中学

企画・制作:人見 豊(慶應義塾高等学校)

演出:松岩(北京風雷京劇団團長)

協力:新潮劇院(日本公演)

チャイナスター公司(日本公演)

風雷京劇団(北京公演)

春謡流宗家元 春謡妙右衛門

広報・撮影:張穎

『京劇・日舞コラボレーション公演』 ご挨拶

今年もここに、京劇公演を実施する運びとなりました。これはひとえに皆様方の我々に対する熱い期待とご支持、また各界の様々な方のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

ここに、これまでの公演(慶應義塾高等学校 京劇鑑賞会)を振り返ってみると、

NHK教育テレビレギュラーであったマルチ才女の盧思さんが、2004年4月から中国語の講師として我々慶應義塾高校に来てくださることになったことから始まりました。

盧思さんのような多彩多芸な先生が我が校に来てくださるので、その各方面での活躍の素晴らしさを生徒諸君に少しでも多く知ってもらいたい、そしてそれが生徒のためになるならば何と幸いなことではないかと思い、京劇の鑑賞会を開くようになったのがその始まりであります。会は何時時間にか今年[2010(平成22年)]で第六回目を数えることになりました。

慶應高校と北京第四中学

今回の中国公演での会場となるのは、北京市の北京第四中学(高中併設)の大講堂であります。会場の音響・映像の諸施設は素晴らしい、特に慶應高校のために同校の校長・書記の方々の計らいで無償で貸していただくことになりました。

凡そこのようなことは、前代未聞のこと、単なる演劇の一公演に休みの日も学校を開放していただけるのです。これは、我が校との姉妹校を巡っての長い話し合いの中で信頼関係を築き、友好を重視してきたことの表れであり、今後の我が校に対する未だに冷めない熱い思いに他ならないからです。

この学校は中国で一二を争う名門校で、現代の中国を動かす政財界の多くがこの学校の卒業生であり、毎年その生徒の5~6割が清华大学、北京大学へ進学しています。

さて、「京劇と日本舞踊のコラボレーション」は一昨年慶應の日吉のキャンパスで上演したものを受け入れをかけグレードアップさせたものであります。本来私は前回、一昨年の公演を最後にするつもりでいました。またそのように考え、そのように言ってきたところ、公演を終えて一月ばかり過ぎた頃、出演者の石山雄太さんと金川量の二人が、お互い図らずも、この企画は素晴らしい、一回切りじゃ余りにももったいないとつくづく思っていますと私にメールを送ってきました。

それならば、何とか日本のみならず、本拠地でもある中國公演ができるかという気持ちになりました。また、このような催しが実現できれば、日中間の友好交流のためになる、更には日中文化相互理解の一助なり、ひいては四中と慶應高校、慶應義塾のためになると想え、またせめて自分として皆様方の我々に対する熱い期待とご支持及び各界の様々な方のご支援へのささやかなお礼ができると思い、このようなことを企画することに至ったわけです。

至らぬ箇所は、多々あると思われますが、十二分に我々のプログラムをお楽しみください。

人見 豊(ひとみ・みのる)2010(平成22)年3月吉日

演目情報

京劇・日本舞踊『日本舞踊・京劇舞踊』(日舞:「三番叟」・「藤娘」)

京劇・日本舞踊合同『三歳法師危機一髪』

上演時間: 約 60 分 (別にレクチャーも有り)

出演者: 石山雄太 卢思 チャンチンホイ 藤間恵磨

日本舞踊

「日本舞踊」とは、歌舞伎から発生した日本の伝統的な踊り。別名、「歌舞伎舞踊」ともいいます。

歌舞伎の歴史は古く400百年前、この頃に基礎が出来上りました。

もともと歌舞伎は、踊りが主体でした。歴史が進むにつれて物語性を持ち、芝居になっています。

今でも歌舞伎役者は必ず、日本舞踊を学びます。

昔、歌舞伎の振り付け師たちが、自分たち独自でも弟子を持ち教えるようになったのが日本舞踊の始まり。

日本舞踊は、歌舞伎と違い女性も学ぶ事が出来ます。今でも沢山の流派が生まれ、発展し続けています。

「三番叟」 藤間恵磨

能の「翁」の伝統を受け厳肅な雰囲気。

その中に、解放的で陽気さが漂い、天下泰平、五穀豊穣を祝う、お目出たい曲。

格式のあるものもあり、昔踊り手はこの踊りの前には、必ず身を清めたそうです。

「藤娘」 卢思

1826年初演の演目。江戸時代の日本民俗絵画から作った日本舞踊。もともとは絵から出て来た娘が踊ると言う趣向舞踊だったが、六代目尾上菊五郎が藤の精が娘姿で踊るという内容に変えて舞台演出を一新して以来、そのスタイルが一般的になり、現在では人気の歌舞伎舞踊の一つである。

レクチャ 「京劇と日本舞踊の類似と相違について」

卢思・金川量 (チャンチンホイ)

『西遊記』ではなんといっても天竺(インド)への旅の物語が有名です。旅の途中に三蔵法師に降りかかった災難を孫悟空の活躍で解決すると言う筋立てになっています。今回は単に京劇のみならず、歌舞伎の孫悟空を加味して舞台を一層面白いものに創っています。

「演目内容」

三蔵法師と天竺までの旅を供するのは、孫悟空、猪八戒、沙悟浄の三人が有名です。じつは、もう1人おります。孫悟空の後に三蔵法師の供になった「白龍馬」、もとは西海龍王の太子でしたが天の神様の宝物を燃やした罪で地上に落とされました。蛇盤山の鷹愁潤、三蔵法師と孫悟空が通りかかる時、白龍馬に出会い、事件が起こります。京劇と日本舞踊によるコラボレーションにて、ご覧いただきます。

主要演者

石山雄太	孫悟空
盧思	觀世音菩薩
チャンチンホイ	土地神
藤間恵麿	白龍(後 白馬)
于躍(新潮劇院)	三蔵法師

《鷹愁潤》

一場：水の中

白龍

「かように候者は、鷹愁潤に住まう、西海龍王が嫡男、白龍にて候
さても、龍宮にて火を起した咎により天の帝に罰せられ、あわや打ち首とならん所、觀世音菩薩に救われて、それがし、この谷川に住まう。

また、西へ向かうという尊き御方様、お待ち申せとの厳命。
とはいえ、道行く獸を喰らい生き長らえてはいるものの、その御方様、どのような御方、現れるは、いつの日か」

小妖怪

「報告!! 美味そうな、坊主がやってまいりました!」

白龍

「そのまま捕まえるには興味が薄い、ここは一つ作を練って坊主をからかい、喰らってやろう」

水族の旗にて白龍を隠し、白龍、女へと変化

二場：三蔵一行

「参りましょう！」

悟空、道行

三蔵

「此処は何処？」

悟空

「鷹愁洞にやつて参りました」

三蔵

「一休みいたそう」

悟空

「道中お疲れでございましょう、托鉢に行って参りましょう」

三蔵

「早く戻つておくれよ」

悟空

「此処でお待ち下さい、直ぐに戻つて参ります」

悟空、去る

白龍、女にて登場

白龍

「そちらにおいでのお方様は、どなた様でございますか」

三蔵

「私は、旅をしている僧でございます」

白龍

「私は、龍花村に住いする者でございます。父も母も佛門に帰依をしております。

是非ともお坊様にお食事をさしあげたいのですが」

三蔵

「いえ、それには及びません。弟子がただいま使いに行参り直ぐに戻ります、ここから離れもできません」

白龍

「そうおっしゃらずに、お弟子様は後ほどお連れいたしましょう、まず、まず…」

三蔵の手をとり、連れ去る

悟空、戻る

悟空

「待てよ！師匠と馬が見当たらない！」

さては妖怪にさらわれたのでは…よし、土地の神を呼び出して訊いてみよう！

土地神よ、出て参れ!!」

土地神、現れる

孫悟空、土地神を呼び出し引ッ捕まえて…

悟空

「やい、土地！この谷水の中には何がいやがる、教えやがれ!!」

土地

「…お手を離して下さい、声も出ません…ケホケホ」

悟空

「早く、答え！」

土地

「しかしこの事が知れると、この淵の主に…後でアタクシが厄介なめにあわされます」

悟空

「大丈夫だ、天界を騒がした俺様だ！」

土地

「は、はあ～(不安そうに)」

悟空

「！！」

土地

「はいはい、申し上げます申し上げます！！

(しぶしぶに)…先ずは、此処は三千年前に谷川の水がよどみ出来た淵にございます

悟空

「(繰り返し)」

土地

「この淵には、五百年前から龍が住み着いております」

悟空

「(繰り返し)」

土地

「実は、西海龍王の息子でございます」

悟空

「(繰り返し)」

土地

「龍宮にある大切な玉を火遊びから焼いてしまいました」

悟空

「(繰り返し)」

土地

「この玉、天帝から預かった大切な宝!!」

悟空

「(繰り返し)」

土地

「罰として、危うく打ち首になるところを…」

悟空

「(繰り返し)」

土地

「何故だか、この淵に閉じ込められた…と、いうワケでございます」

悟空

「(繰り返し)」

土地

「腹が空けば、辺りの獣や人を喰らっております、さては…この龍めが三歳様を…？」

悟空

「どうした!?」

土地

「さらって行ったのでは…？」

悟空

「こしゃくな！馬を喰らい、お師匠様を連れ去るとは、このドジョウめ!!天地を荒らしたことの悟空様を知らんのか!!皮をはぎ、筋を引き抜いてやる！」

悟空

「やい土地神、師匠を助けに行くからついで来い!」

孫悟空、去る

土地

「さてさて、困ったもんだ

…白龍の事を話させねば、吊るし上げられる…話した事が知れたら、白龍に吊し上げになる

まこと、この役目も、つらうございます…トホホホホホ

土地神、去る

三場：鷹愁澗

白龍

「こちらが私の家にでございます、どうぞお入り下さいませ」

お坊様、何かご所望はございますか」

三藏

「出家の身の故、精進もの以外はいただくことができません」

白龍

「私の家には山海の珍味を取り揃えご用意しております…(云々)

馬の肉、一番好きなのは坊主の肉、覚悟!!」

悟空

「こしゃくな妖怪め！」

大立ち回り

觀音

「お待ちなさい」

三藏

「觀世音菩薩様！阿弥陀佛…」

白龍

「は、ははあ～!!」

觀音

「その者は、西海龍王の息子、天帝に打ち首になる所を助け、この鷹愁澗に閉じ込めた。

唐の国より参る者に着き、長い旅路の中で悔い改めさせるのが目的、此處で待つようと言いつけた。

今、目の前にいる者が、天竺に取經に参る者。この者に着いて行き艱難辛苦を乗り越えよ」

白龍

「な、なんと貴方様が…それとは知らずに、先刻のご無礼お許し下さりませ。

長らくお待ち申しておりました。どうぞ天竺までお供をさせて下さりませ。

これからは、それがし喰らった馬の代わりとなり、日に千里をかける白馬となって貴方様を背に乗せ、お守り申し上げます！」

三藏

「菩薩様、ありがとうございます」

=完=

プロフィール

石山雄太（いしやま・ゆうた）

中国京劇史上初の外国人京劇俳優。中国国家京劇院所属。

小学生の時、京劇《孫悟空》を見て、将来京劇

の舞台に立って「孫悟空になりたい」という夢を一筋

に追い続け、1993年高校卒業後に単身北京に渡り

中国戲曲学院に入学、本格的に京劇を学び始める。2001年に

大学卒業、中国京劇院（現・中国国家京劇院）に入団、現在に至る。

外部出演多数。



盧思（ろ・し）

1973年北京の京劇の名家に生まれる。

85年に7年制の中国京劇学校に入学。

在学中に訪日公演に参加する。

92年首席で卒業、中国京劇院の俳優になる。

芸術家としての才能は俳優だけに留まらず

93年中国画を学ぶため中央美術学院に入学。

97年大学卒業後来日。

99年東京藝術大学大学院美術研究科に入学し

日本画を学ぶ。2001年に修士課程を修了し

現在桜美林大学、日本橋学館大学、慶應義塾

にて非常勤講師として美術、中国語を教える

傍ら、毎年各地で個展を開催し、日本で行われる京劇公演にも多数参加している。

NHK中国語会話番組にも出演。



張 清蕙（チャン・チンホイ）

主に丑角(道化の役柄)を専攻。同僚によると、日本語が上手く話せる。もともと日本の古典芸能に造詣が深いが、それだけに飽き足らず海を渡り北京で京劇の俳優の修行を積む。帰国後はその経験を活かし日本語で演じても違和感の無い京劇を研究中。中国語は北京弁を流暢にこなす。

1993年/北京京劇院 丑(道化)角俳優に師事。
1995年/春節 名丑角大会《打城皇》に出演。
1999年/中国中央電視台主催『第三回 北京
国際京劇・昆劇票友電視大会』にて
《小上墳》の演目で金龍獎受賞。
東京京劇団、新潮劇院 等在日の京劇劇団の
公演にも出演。得意演目:《小上墳》他。

（このページの翻訳文）
「私は、中国の古典芸能である京劇や昆劇の道化の役柄を専門としている。日本語が上手く話せる。もともと日本の古典芸能に造詣が深いが、それだけに飽き足らず海を渡り北京で京劇の俳優の修行を積む。帰国後はその経験を活かし日本語で演じても違和感の無い京劇を研究中。中国語は北京弁を流暢にこなす。



藤間 恵麿（ふじま・けいま）（本名：岩田 雄一）
1988年9月29日生まれ。
1995年慶應義塾幼稚舎入学
2007年慶應義塾高等学校卒業
2010年慶應義塾大学 経済学部3年在学中。
趣味：バスケットボール・音楽鑑賞・読書／ 将来の夢：『夢は世界で飛び六法!!』
〔主な舞台、芸歴〕
1996年故守田勘弥夫人、坂東玉三郎母、藤間勘紫恵師に入門。
1997年10月28日、あかし会記念公演、常磐津「五色晒」雄太役、明治座にて初舞台。
2001年9月23日第44回あかし会、長唄「紀州道成寺」、於国立劇場大劇場。
共演：中村信二郎（現：中村錦之助）。
2003年3月、宗家藤間流『藤間恵麿』名執取得。
2005年9月18日第46回あかし会、長唄「二人猩々」、於国立劇場大劇場。共演：中村萬太郎。
2007年5月5日第47回あかし会、長唄「藤娘」於国立劇場大劇場。
2008年11月宗家藤間流、師範名執。
2009年慶應義塾大学歌舞伎研究会「壽慶應大歌舞伎—第50回記念公演—」代表



松岩（ソン・イエン） 北京風雷京劇團團長

1964 年生。中国戲劇家協会会員。北京市人民代表大会代表、国家一級俳優、北京風雷京劇団団長。1977 年に北京風雷京劇団の学生班で京劇を学び、著名な京劇芸術家に教えを受ける。劇団を率いてアメリカ、日本、ロシア、オーストラリア、マレーシア、香港、台湾などの国や地域を訪問し、成功を博す。6度の日本公演では、東京、仙台、愛知、大阪、神戸、福山、北九州、宮崎等を訪問し、特に岐阜県では「松岩京劇ファンクラブ」まで設立された。地元の地歌舞伎保存会と合同で、京劇と歌舞伎藝術を融合させたオリジナル演目「義経干本桜」を上演した。2008 年秋には日中友好協会主催の 13 都市 18 公演日本ツアーを行い、日本の観客の熱烈な歓迎を受けた。



主催者から皆様へ、ご支援、ご寄付のお願い。

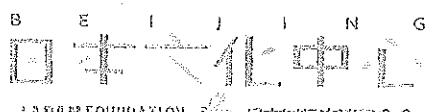
この公演は、今回も人見豊の企画により、非営利的な文化活動、日中交流のこころみの一環として実施しております。

しかしながら、国境を越えた活動には経費の増加は避けられず、昨今の経済状況、社会情勢において、勝手ではございますが、心ある皆様の本公演へのご支援、ご援助をいただけると、ありがとうございます。たとえ小額でも結構ですから、ご寄付いただける場合は、会場に設置しております箱にお入れください。

ありがとうございました。

人見豊

日本・中國 演出 松岩(北京風雷京劇團團長)
協力 北京公演出演者 風雷京劇團
日本公演公演出演者協力 新潮劇院
チヤイナスター公司
春謡流宗家家元 春謡 妙右衛門
照明 橫山晃彥・唐鑑宏行
音響 山本佑
ビデオ録画・編集 奥行由之・大久保匠馬・末廣吉成
広報・写真 張穎
ポスター・デザイン 岸本淳
会場提供 北京第四中学校
日本公演主催 慶應義塾高等学校 外國語科中国語
中国公演主催 北京第四中学校
後援 日本国驻中華人民共和国大使館
助成：国際交流基金北京日本文化センター



協賛 慶應義塾 宮田語力充実資金
プラチナ萬年筆株式会社
エイベックス・エンタテインメント株式会社

企画・制作(日本・中国)慶應義塾高等学校外国語科中国語 人見豊